

カトリック八尾教会ニュース



2022年10月
Tháng mười

【今月の予定】

ミサの時間

2日(日) 年間第27主日

9:00

①グループ (A地区+ベトナム1)
小教区評議会 (10:30~、ホールにて)
典礼委員会 (評議会後~)
ブロック会議 (13:30~、八尾教会)

9日(日) 年間第28主日

9:00
11:00

②グループ (B地区+ベトナム2)
③グループ (C地区+ベトナム3)

15日(土) 初聖体勉強会

14:00

16日(日) 年間第29主日

11:00

①グループ (A地区+ベトナム1)

ベトナム語のミサ 15:00

<<インターナショナルデー 11:00

大阪カテドラル聖マリア大聖堂にて>>

23日(日) 年間第30主日

9:00
11:00

③グループ (C地区+ベトナム3)
②グループ (B地区+ベトナム2)

30日(日) 年間第31主日

10:00

故ラファエル松本武三神父様 (2017.10.24) 追悼
子どもとともにささげるミサ (子どもの祝福)

【平日のミサ】

木曜日 10:00 (6日、13日、20日、27日)

* 今月より、再開されます。どなたでもご参加ください。



【お知らせ】

◎ **インターナショナルデーミサ (10/16) について**・・・**入場整理券**が必要です。参加希望者は担当者に申し出てください。(枚数に限りがあり、外国人信徒を中心に配布。)

◎ **合同追悼式**・・・11月6日、13日に合同追悼式を行いますので合同追悼者名簿を所定の箱へお入れください。献金は任意とし、直接箱にお入れ下さい。(典礼委員会)

◎ **売店より**・・・来年度のカトリックカレンダーや手帳などの申込みを受付けています。

◎ **「外国人住民基本方針」と「人種差別撤廃基本法」の制定を求める署名**

日本カトリック司教協議会より、現在の日本の外国人法制度の改正を行い、日本国憲法と国際人権条約に基づく法の制定を求めるものです。署名は年齢、国籍を問わずどなたでもしていただけます。受付に署名用紙を置いてあります。ご協力おねがいます。(社会活動委員会)



霊性 (spirituality) (2)

ベネディクト 崔 周永 神父

ハイリー・センシティブ・パーソン (Highly Sensitive Person、HSP)。どうやら、その一人のようだ。

司祭になってから引越しの数が増えた。部屋が変わり、生活環境が変わる度かなりのストレスを感じる。部屋の中で彷徨う気持ちが長く続き、すべての持ち物があるべく所に置かれるまで落ち着かない。音や光に超敏感で、甲高い声や他人を貶すような笑い声に大変不快感を覚えてしまう。道を歩いていると、向こうから近づいてくる人のことが大変気になる。何故なら、内面の様子が、例えば、怒っているか鈍感な人なのか傲慢なのか等が体で感じられるから。そして、物事の本質がよく見える。単純なことを複雑にしてみよう人、特に自分の利益の為に嘘をつくのが分かってしまう。何かの特別な能力ではなく、その人の発散するエネルギーへの自然な反応の結果なのだ。それに、人の気持ちがよく分かる。その苦しみや悲しみに大変敏感で、私も痛みを感じる。

イタリア留学の時、ペルージャ (Perugia) で5か月間イタリア語の勉強をしていた。中世時代に遡ったような街並みと建物で、イタリア人でさえ観光に来る町だった。滞在先はペルージャ教区のカテドラルと司教館が一体となっていた建物の一角で、築500年以上の石造りのものだった。部屋の床は石畳で、綺麗なモザイクが施されていた。とうの昔の職人が精魂込めて仕上げただろう床、時間の重さが詰まった部屋で昼はイタリア学校に通い、夜は独りで勉強をしていた。言葉が通じないし、洋を超えた物凄い変化にまだ慣れていない状態で、必死にイタリア語の勉強に励んだ。声を出して発音してみることが外国語の上達には必須だ。未来少年コナン、アルプスの少女ハイジ。ご存じのこのアニメを、イタリア語の吹き替えものを用いて語学の練習をしたのだ。唇を動かしてみると、発音の仕組みがよく理解できるし、体自体に言葉を叩き込むような効果があるので、毎日やっていた。ある日、ふと気づいたら泣いているのではないかと、自分が。コナンの、ラナへのバカのような献身ぶりに、ハイジのお爺さんとアルプスの大自然へのノスタルジアに深く共感していたのだ。その上、結局、その感情は神様に至るものだったと時間が経ってから分かった。真っ直ぐに、何もかもを投げ込むこと、命の源である神様をこよなく懐かしむこと。神体験！それは、祈りであり、神様との深い出会いだったのだ。春頃の暮れかけには、物凄い迫力で飛び交っていたツバメの群れが、金曜日に広場でほぼ夜を徹して騒いでいた人達が、散歩に出た時に目に入ってきた様々な街の様子が、それに少しずつ失っていた健康のことさえも大変愛おしく感じる。ペルージャからローマへ。そして、全部4年間素晴らしい時間を過ごした。学び、感じ、祈っていた。時間は流れていく。自分もその流れの中でいつかは死んでいこう。この人生、神様に向かって、神様を探して始めたこの旅は決して止まることはない。真っ直ぐに、惜しまず持っている全てを投げ込みたい。燃え尽くしたい。ペルージャのあの建物の窓から広場に集まっている人々を眺めながら、そう決心した。そう感じた。